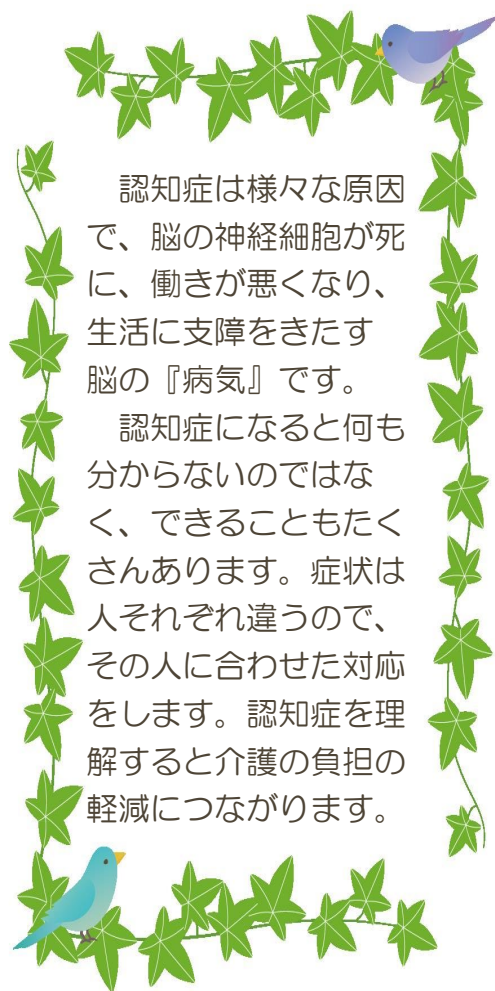


認知症ってどんな病気？



認知症は様々な原因で、脳の神経細胞が死に、働きが悪くなり、生活に支障をきたす脳の『病気』です。

認知症になると何も分からないのではなく、できることもたくさんあります。症状は人それぞれ違うので、その人に合わせた対応をします。認知症を理解すると介護の負担の軽減につながります。

ぜひこのパンフレットを
参考にしてみてください



もの忘れ看護相談外来 開設のお知らせ

当院では、日頃の暮らしの中で認知症や認知機能低下によって、生活のしづらさがある方やご家族の悩みを一緒に考え、解決のお手伝いをするため、もの忘れ看護相談外来を開設しました。

担当者

第1・3木曜日 13:00～16:00	坂本真一郎認知症 看護認定看護師
第2・4木曜日 13:00～16:00	北原こゆき認知症 看護認定看護師

☆お気軽にご相談ください



独立行政法人
国立病院機構菊池病院
住所：〒861-1116
熊本県合志市福原 208

☎096-248-2111

もの忘れ (記憶障害) (見当識障害)

～原因と対応について～



見当識障害ってなに？

見当識障害とは、時間、場所、周囲の人や状況について、正しく認識することができなくなる状態のことを言います

時間

今日は、何月何日なのか、今は何時なのかが分からなくなり、不安になります



場所

急に、今自分がいる場所が分からなくなり、不安になり、歩き回ったりする

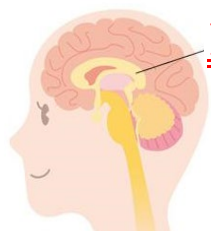
ひと

周りの人が誰か分からなくなり、不安になったり、焦ったり、悲しくなります。



認知症の方は、この順番で進行していきます。

認知症の記憶障害について 意外に知らない？



海馬

記憶の 保管庫

この海馬で、最近の記憶を保管します。認知症（特にアルツハイマー型認知症）はこの海馬が傷ついて、昔ほどの記憶が保管できなくなります。そのことによって最近あったエピソード自体が、頭の中からなくなってしまうのです。

手続き記憶って知ってますか？

この記憶は、認知症になっても比較的保たれると言われています。例えば、裁縫や自転車に乗るなどです。やり始めると思い出し行うことができます。



どのように関わればいいの？

記憶を補うことが 大切です



覚えてほしいことを繰り返し会話に盛り込んだり、文字が分かる人には、メモを残したり掲示したりします。

時計やカレンダーを活用し、見当識を補うことは不安の軽減に繋がります。



同じ質問をされるのにストレスを感じていませんか？

介護者は、同じことを何度も聞かれると「ああ、またか」と思ってしまいます。

そんな時は、話題をそらすことが効果的。「お茶飲む？」や「散歩に行こうか」など、気分を他に向けるとよいでしょう。

